



### 環境改善目標1 希少植物の生息域外保全



#### 活動の意義と育成する“和の花”について

(フタバアオイ 及び) フジバカマ・ヒオウギ・  
キクタニギク・クリンソウ・ノカンゾウ・  
タムラソウ・イワギボウシ



(公財)京都市都市緑化協会 佐藤正吾

### 活動の背景

## 希少になっていく自生植物

京都府レッドデータブック (RDB) 2015年版では、  
以前より絶滅の危険性が高いカテゴリ (区分) にランク  
が引き上げられた植物が数多くある。

### 京都府RDB (2015) に掲載された種子植物

絶滅種	45種(02年版 62種)	減▼
絶滅寸前種	222種( " 157種)	増▲
絶滅危惧種	224種( " 141種)	増▲
準絶滅危惧種	182種( " 142種)	増▲
要注目種	75種( " 54種)	増▲

京都府内の種子植物の総数(推計)は約2,350種で、「総数の約31.8%がノミネートされたことになる。これは全国的に見ても非常に高い数値(前回は約24.2%)」

——京都府レッドデータブック(2015年版)より

ありふれていた……はずの植物が消えていく

## 消える秋の七草（七種）

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花  
——山上憶良（万葉集・巻八）



ハギ(マメ科、写真はナンテンハギ)



カワラナデシコ（ナデシコ科）  
京都府RD記載ないが減少



フジバカマ（キク科）  
京都府RDB:絶滅寸前種



ススキ(イネ科)



クズ(マメ科)



オミナエシ（スイカズラ科）  
京都府RDB:準絶滅危惧種



キキョウ（キキョウ科）  
京都府RDB:絶滅寸前種

## 希少生物の保全 2つの方法

希少な植物(生物)の保全には、2通りの方法があります。基本的には生息域内保全が望ましいのですが、自生地の環境が大きく変化する中で、緊急的な措置として、また、生息域内保全に至るまでの手段として、生息域外保全はますます重要となっています。

### 生息域内保全（自生地の生態系の中での保全）

(例) 里地・里山の管理と利用、獣害対策(シカによる食害は京都では特に深刻)、外来種(国外・国内)の駆除、水質保全……

### 生息域外保全（自生地ではない場所での保全）

(例) 系統保存(優良な少数の株を細く長く保存)、園芸的な保存(植物に親しむ生活文化を背景にした園芸家等による栽培)、種子保存、バイオ技術による培養……

※市街地では、容器栽培での育成も有効。繁殖技術の継承も大切。

### 国際自然保護連合 IUCN/SSC(2014)

生息域外管理は、生息域内管理を補完するツールとなり、非常に重要な役割を担う可能性がある。

IUCN/SSC(2014): Guidelines on the Use of Ex Situ Management for Species Conservation Version 2.0, IUCN Species Survival Commission, Gland, Switzerland

## 生息域外保全の重要性と留意点

### 国(環境省)レベル

「種の保存法」を改正(2017)。指定種の生息域外保全支援等の事業を強化。このうち植物種は122種。

◆環境省と(公社)日本植物園協会の協定(2017年～)

生息域外保全の実施状況に関する情報の共有、種子保存、繁殖技術等の確立、自生地情報・遺伝情報の整備、野生復帰の研究等について植物園のネットワークを通じて連携・協力(「希少野生植物の生息域外保全検討実施業務」)

### 各都市(自治体)レベル

ローカルなレベルで絶滅の危険度が高い種が、種の保存法指定種の数よりもさらに多数存在する。特に「秋の七草」のように、身近にありふれていたのに近年急速に失われているローカルな絶滅危惧種を掬(すく)い上げることが重要。(京都では歴史文化的な背景から、重要性に気付いている関係者は多い。)

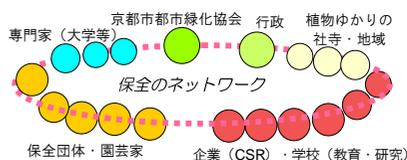
**留意点** ある植物について、現在も自生地があるにも関わらず、「同じ種だから」という理由で他の地域から持ち込むと、その自生地の植物群落の遺伝的固有性(多様性)を脅かすことになりかねません。「生息域外」に持ち出した植物が、場合によって「外来種」(国内外来種)ともなりうることに注意する必要があります。⇒「逸出」を防ぎ、第三者への譲渡は抑制的に

※3月1日付提供【別紙2-1】も参照ください。

## ネットワークで行う意義

～危険分散・まちに広げる・関心を高める～

◆身近(都市)で行う栽培……危険分散、レフュジア(避難地)



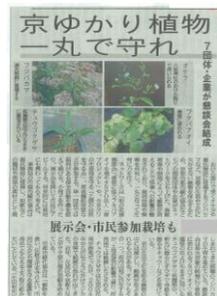
ネットワークのイメージ

【事務局】京のアジェンダ21フォーラム KES環境機構  
京都市都市緑化協会 京都駅ビル開発 京都市

◆社内・社外での広報(都市と生き物との関係に関心を高めていただく)

◆(可能であれば)さらに自社緑化や都市の外での活動のきっかけに

希少植物保全の活動  
(緑化協会の例)



京都新聞 2013年10月28日



## 2022年度に取り扱う植物について

3月1日参加団体配布資料 【別紙1-2】希少種栽培方法等比較表(2022)

【別紙1-2】 1. 希少植物の生息域外保全活動 植物栽培方法等の比較表

(注1) 実生……種子から発芽した苗を育てること

(注2) 少なくとも毎日(毎日)の管理ができる場合の育てやすさ

	種名 (科名)	レッドデータブック 記載ランク(国、府)	花期	自生地の環境	栽培環境・方法 (容器栽培として)		殖やし方 【交雑しやすい植物 は実生※1を推奨 しない】	育てやすさ(注 2) 5(易)～1(難)
					日照	水やりの注意		
A	フタバアオイ (ウマノスズクサ科)	—	3～5月	落葉樹林下	春先は明るい場所、5月以降は半日陰、盛夏は日陰に置く。	水はけの良い土で、ムシしないように。5月～9月は乾燥に注意する。	株分け、実生	3
B	フジバカマ (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅寸前種	9月下旬～10月	川の堤防、水田周辺などの明るい水辺	日当たり好むが、盛夏の西日は苦手。	盛夏は潅水灌水、1日2回(灌水が不可能なら日射を避ける)。	株分け、挿し芽	4
C	ヒオウギ (アヤメ科)	京都府準絶滅危惧種	7月中旬～9月	海岸の草地、海岸林、山の草地	日当たり好む。	乾燥には強いが、花期前・盛夏は日射と乾燥による葉焼けに注意。	株分け、実生	5
D	キクタニギク (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅危惧種	10月下旬～11月	乾いた川の法面、山麓の土手	日当たり好むが、盛夏の日射は苦手。短日植物であり、夜間照明の近くに置かない。	乾燥にはやや強いが、盛夏は乾燥に注意。	挿し芽	4
I	クリンソウ (サクラソウ科)	京都府準絶滅危惧種	4～5月	山地の谷間の湿地	日当たりを好むが、夏は半日陰で育てる。	春～秋は潅水灌水により水を切らさない。	株分け、実生	3
J	ノカンゾウ (ススキノキ科/ワスレグサ科)	京都府絶滅危惧種	7～8月	日当りのよい湿った草地	日当たり好む。	夏は乾燥に注意。盛夏は潅水灌水。	株分け、実生	5
K	タムラソウ (キク科)	—	8～10月	里草地、高原	日当たり好むが、盛夏はできれば半日陰が良い。	盛夏は乾燥に注意。他の季節はやや乾燥気味に。	株分け、実生	4
M	イワギボウシ (キジカクシ科)	京都府準絶滅危惧種	8月～9月	山中の湿った岩上や樹上	春先は明るい場所、5月以降～秋は半日陰で育てる。	湿気を好み、乾燥には強くない。表土が乾いたら十分に灌水。	株分け、実生	4

## 2022年度に取り扱う植物の紹介

### 植物1 フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)



*Asarum caulescens*  
ウマノスズクサ科 多年草  
京都府RDB 記載なし  
花期 3～5月。

**日本固有種。**本州、四国、九州に分布するが、7つの県では絶滅危惧・準絶滅危惧種。

- ・上賀茂神社・下鴨神社の神紋
- ・葵祭(賀茂祭)で使用(1万数千本)。  
全ての参列者の衣冠、御所車などに「葵桂」を挿した飾りを付ける。

※フタバアオイについての詳細は、  
(一財)葵プロジェクト様の資料をご覧ください。

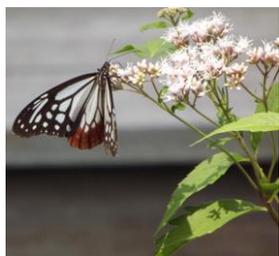


斎王代と女人列 (写真提供 上賀茂神社)



上賀茂神社での「葵里帰り式」の様子

## 植物2 フジバカマ (キク科 多年草)



学名 *Eupatorium japonicum*

秋の七種(七草)の一つで、『源氏物語』など文芸ににたびたび登場する。水辺を好みますが、現在、自生地はごく限られます。

葉には独特の芳香(クマリン)があり、香料や薬用にされ、古代から貴族の男女が衣服や髪にしのばせていました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。

環境省RDB: 準絶滅危惧(NT)

京都府RDB: 絶滅寸前種

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花  
——山上憶良(万葉集・巻八)

### トピック

同じ万葉集では、元号「令和」の出典「梅花の歌三十二首」の序(巻五)に「蘭」(らん)という別名でも登場します。

「初春の令月にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薫(かお)らす」

中西進(1978)、「万葉集 全訳注原文付(一)」、講談社文庫(1978第1刷、2013年第48刷)

和名「フジバカマ」には2種あり、自生種(左)の保全育成に努めています。



自生種

*Eupatorium japonicum*

水田や河川・湖沼の水辺(草地)に自生

京都府RDB絶滅寸前種



一般に流通

*Eupatorium fortunei*

全体に小振りで扱いやすく、庭の植栽や切り花などに使われる

両者はシノニム(別名)でなく、別種と考えられる(村田源氏)

## 藤袴と和の花展（梅小路公園） 2009年秋～



1998年に数十年ぶりに市内で見つかった株を西京区の藤井肇氏が域外保全。これを元に、KBS京都・緑化協会が挿し芽、鉢植えで保全し毎年秋に展示してきました。  
(2020、2021年はコロナ禍のため規模を大幅縮小)



### 休耕田を利用した保全



嵯峨水尾（右京区）



大原野（西京区）

### 鉢を街中で飾ると風景に



2010年 御池通

## フジバカマに訪花する渡りの蝶 アサギマダラ



フジバカマの蜜を求めて、秋に北の地方から飛来します。蜜の成分を使って性フェロモンをつくるために、特にオスが多くやってきます。

渡りのルートを明らかにするため、マーキング調査が行われています。京都市からも台湾まで渡った個体がいくつも確認されています。

写真(上)は、数日前に滋賀県で捕獲され、水尾(右京区)で見つかった個体  
(撮影: 秦賢二氏)



## 植物3 ヒオウギ (アヤメ科 多年草)

学名 *Iris domestica*



日本のほか、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドなどにも広く分布します。

7月中旬ごろから、祇園祭に合わせるように花茎がするすると伸び、赤い花を咲かせます。厄除け、魔除けとして街で飾られ、根茎は、風邪などに効く生薬「射干」(やかん)として重宝されました。名の由来は、葉の様子が木製の「檜扇」に似ているためとも、「緋扇」とも。

環境省RDB: 記載なし

京都府RDB: 準絶滅危惧種

### トピック ダルマヒオウギ (右)

祇園祭の「屏風祭り」で一般に飾られるのは、ヒオウギの変種ダルマヒオウギ(宮津市産が有名)。花色、葉の形は様々で、草丈は低く屋内の飾りに適しています。



### ヒオウギの種子 ぬばたま、うばたま、むばたま (射干玉、烏羽玉)

漆黒で、黒髪のように艶があることから、黒、髪、夜、夢などにかかる枕詞に。



茶菓子のモチーフにも。



和名の由来となった飾り檜扇(ひおうぎ)の例

ぬばたまの 夜の更けぬれば 久木生うる  
清き川原に 千鳥しば鳴く  
——山部赤人(万葉集九二五)  
うばたまの 我が黒髪や かはるらむ  
鏡のかげに 降れる白雪  
——紀貫之(古今和歌集四六〇)  
※かみやかは(紙屋川)が読み込まれている。

2022年度に取り扱う植物の紹介

# 植物4 キクタニギク (キク科 多年草)



がけ地に自生するキクタニギク (西山)

学名 *Chrysanthemum seticuspe* (f. boreale)

本州・九州・四国の一部の府県、朝鮮半島・中国大陸(北部・東北部)に分布。

京都の東山から流れ出る菊溪(菊谷)川の河川敷に自生していたのが和名の由来ですが、現在、東山では確認できません。

晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせ、別名アワコガネギクとも。若葉は清々しい香りがします。花から精油をとって香料にしたり、江戸時代には油漬けにして傷薬にしました。

菊溪は江戸期の名所案内に数多く登場。本居宣長が没年に「古の人に契りを結びみん 住みける跡と きくの谷水」と読むなど、全国から多くの文人が訪れました。

環境省RDB：準絶滅危惧 (NT)  
京都府RDB：絶滅危惧種

**トピック** 広義キク属のモデル生物 広島大学等による国家プロジェクト「NBRP広義キク属」が進展。純系化されたモデル系統がゲノム解析され、広義キク属のモデル生物に位置付けられました。

## 「キクタニギクの花咲く菊溪の森づくり」 (京都伝統文化の森推進協議会)

地域性種苗(イロハモミジなど苗木とキクタニギク)の育成から植栽までの流れ(KESネットワークとの関係) 「四季彩りのもりづくりだより」 No.5 より

### キクタニギクの花咲く菊溪川の再生へ

京都伝統文化の森推進協議会(略称：伝文)と連携し、シイ林の林相改善事業(H19~)の一環として、キクタニギクの咲く菊溪川の再生を目指しています。  
市民、地味、企業の皆様との協働により、シイやヒノキなどの光を遮る常緑高木を約80本伐採し、平成29年3月4日には、明るくなった菊溪に、キクタニギク50株や、ムラサキシキブなどの「京の苗木」5種類約80本を植栽しました。今回、キクタニギクの苗木は、KESエコロジカルネットワーク参画企業11社からも提供いただきました。また、「京の川の恵みを活かす会」に協力いただき、今後の菊溪における水生生物相の変化を把握するため、伐採前の水生生物の生息状況を調査しました。

キクタニギク提供企業(株)名  
京都生活協同組合、株式会社元興、日本新薬株式会社、光電工株式会社、京都建設株式会社、百田商事株式会社、F&E 11社、F&E 12社、株式会社、京都市、株式会社(株)南河内、株式会社三浦電機製作所、株式会社吉川工務店



※キクタニギクは、花言葉「静し合わず」「寄り添うように」とあるように、11月以降、小さな鐘型の花をたくさん咲かせる野菊です。若いヒメなどに生える多年草で、自然に発芽します。種名は、かつての菊の名称「菊溪(菊谷)」に由来しますが、京都府危険種に区分され、「菊名のもと」に当たらない場合は「菊谷」で区別されています。  
伝文では、菊溪、菊谷付近の河川に自生する水生生物の生息状況を把握するため、伐採前の水生生物の生息状況を調査しました。

同協議会により、2017年よりKESエコロジカルネットワークからの提供株を共同で植栽する作業が行われています。

## 植物5 クリンソウ (サクラソウ科 多年草)



学名 *Primula japonica*

春から初夏にかけ、高さ40～80cmの花茎を出し、紅紫色の柄のある花が花茎を囲むように咲きます(輪生)。輪生した花は、2～3段、時にはそれ以上の段をつくります。

その様子が、寺院の五重の塔など仏塔の頂上を飾る金属製の「相輪」の一部分「九輪」のように見えることから、この名がつけました。中世に「宝幢花(ほうとうげ)」と呼ばれていましたが、これも仏教にちなみます。

北海道、本州、四国、台湾に分布します。湿り気のある環境を好み、山野の小川や湿地に自生します。

冬になると地上部はすっかり枯れ、春になると再び、根際から葉、茎を出します。

環境省レッドデータブック 記載なし  
京都府レッドデータブック 準絶滅危惧種

江戸時代末期に日本を訪れたイギリス人植物学者ロバート・フォーチュンは「プリムラ(サクラソウ類)の女王」と称賛。のちに欧州に伝えられ、様々なプリムラの品種の元(原種)ともなりました。

京都では、山間部で、水の流れに近い農家や寺院などで育てられているのを見かけることができます。

京都府レッドデータブック2002年版では絶滅危惧種でしたが、2015年版は準絶滅危惧種。シカが好まない植物で、近年では増加する傾向にあるとされます。ただ、花は食べられることがあるとの情報もあり、予断を許しません。

左京区大原・古知谷の阿弥陀寺。  
400株にもなるクリンソウの群落



◀ 北区山間部の寺院境内。半日陰のやや湿った場所で育てられている。

## 植物6 ノカンゾウ

(ススキノキ科またはワスレグサ科  
多年草)

学名 *Hemerocallis fulva* var. *longituba*



7～8月にユリに似た、オレンジ～赤色の大きな一重の花を咲かせます。本州以南、朝鮮半島、中国大陸北部に分布。府内では田のあぜ、堤防の草地などに分布していましたが、草刈りがなされないなどが原因で急激に自生地が失われました。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種  
(2002年版ではランク外だった。)

近縁のヤブカンゾウ（八重咲きの帰化植物）、中部地方以北の標高の高い湿地に自生するニッコウキスゲ、小型で早咲きのヒメカンゾウ、京都府では絶滅したヒメノカンゾウなど、多くの変種や栽培品種を含むヘメロカリス(ワスレグサ属)の仲間です。「ヘメロカリス」は「1日の美しさ」という意味で、いずれも1日花。



ニッコウキスゲ

### 生活で利用され親しまれる

若芽や花は山菜として、つぼみや根は薬用にされました。「忘れ草」の名で古くから親しまれ、新芽を食べる、あるいは、植えたり、身につけると、憂さや人恋しさを忘れられると信じられて、文芸作品にも数多く登場します。

また、近縁種ヤブカンゾウは、中国大陸原産で、ノカンゾウとは異なり、種子をつけない植物のため、奈良時代以前に渡来し、有用植物として、人々が各地に運んだのだらうと考えられています。

### 注目

ノカンゾウ、ヤブカンゾウとも、つぼみを摘み、蒸してから天日で乾燥したものが風邪、不眠症などに効く生薬「金針菜」となります。



ヤブカンゾウ

2022年度に取り扱う植物の紹介

## 植物7 タムラソウ (キク科 多年草)



学名 *Serratula coronata* subsp. *insularis*

日当たりの良い山地の草原や林縁に生え、草丈は30cmから、環境によっては大きなもので1.5mにもなります。

晩夏から秋(8~10月)にかけ、紅紫~薄紫色の花を咲かせます。一見、アザミ類によく似ています。しかし、茎や葉にトゲがないため扱いやすく、花も優美なため、生け花、茶花、庭の植栽に使われています。葉は羽状に切れ込み、茎の下部では大きく上部では小さくなります。地方によっては若葉が食用になりました。

名の由来はなぞです。同じく秋に花が咲くアキノタムラソウや、その近縁のタジマタムラソウなどはシソ科で、全く別の植物です。タムラソウの別名「タマボウキ」は、コウヤボウキ(キク科の低木)の別名でもあります。

**注目** タムラソウは本州、四国、九州、朝鮮半島に分布しますが近年、西日本を中心とする都道府県RDBの掲載が増え、京都でも見られなくなりつつあります。基本(亜)種のマンシュウタムラソウとその近縁種はシベリア、中国大陸、欧州まで非常に広く分布し、中国では薬用にされています。

環境省RDB: 記載なし

京都府RDB: 記載なし



2022年度に取り扱う植物の紹介

## 植物8 イワギボウシ (キジカクシ科 多年草)



学名 *Hosta longipes*

山中の湿った岩場や樹上を好み、草丈は20~40cmほどの小型。お盆を過ぎ涼しくなり始める8~9月に、薄紫色の花を多くつけます。葉は多くなく、長い葉柄があり、先がやや尖っています。

東西南部から近畿地方にかけての本州にだけ分布する日本固有種です。府内では、京都市北部から北でしか見られません。

環境省レッドデータブック 記載なし

京都府レッドデータブック 準絶滅危惧種

府内には、ミズギボウシ(府絶滅危惧種)、オヒガンギボウシ(府準絶滅危惧種、イワギボウシの変種)など近縁の数種が自生しますが、多くが希少になっています。

ギボウシの名は、一説に、橋の欄干の柱を飾る「擬宝珠」が転訛したとされます。江戸時代まで漢字表記は「玉簪」が一般的で、タマカンザシの別名や、園芸品種「タマノカンザシ」もありました。「イワギボウシ」の名は江戸後期には本草書に現れ、近縁種と区別されました。



イワギボウシ(1829作図) 毛利梅園「梅園草木花譜」(国立国会図書館所蔵)

**注目** ギボウシ類(英語ではホスタ)は欧米では人気で、日本から渡って改良され、逆輸入されたものもあります。多くの品種があり半日陰~日陰のシェードガーデンで使やすく、人気が高まっています。また、トウギボウシ(オオバギボウシ)などは、地方によっては春の山菜(別名ウルイ)として栽培もされています。

## 「グリーン・リカバリー」と生物多様性



欧州委員会 ウルズラ・フォンデアライエン委員長

2020年5月20日 欧州委員会提案

EU Biodiversity Strategy for 2030 (2030年までのEU生物多様性戦略)

A Farm to Fork Strategy (「農場から食卓へ」戦略) が含まれる。

⇒論争の末、2020年7月に今後10年の予算付けを決定。

- ・2019年末発表の欧州グリーンディールを他国(加、豪、NZなど)が追随
- ・過去にパリ協定を離脱した米国はEUとの環境ビジネスでの競争に意欲
- ・2020年9月 国連生物多様性サミット参加予定指導者による「自然へのリーダー誓約」 One Health アプローチの推進
- ・2020年3月 グリーンインフラ官民連携ネットワーク発足(事務局・国交省)
- ・2020年10月 菅首相2050年CO2ニュートラル宣言
- ・2021年5月 農水省「みどりの食料システム戦略」発表
- ・2022年8月 環境省「民間取組等と連携した自然環境保全(OECM)の在り方に関する検討会」発足



ご案内

### 和の花など緑に関するご相談

(公財)京都市都市緑化協会では、緑に関するご相談を受け付けています(無料)。KESエコロジカルネットワークで取り扱う「和の花」の育て方や、その他「緑」に関するご相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

#### ■育成の仕方について

花とみどりの相談所(梅小路公園内)

水曜日・土曜日 10~12時、13時~16時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-561-1980

#### ■保全・活用、緑のボランティア活動などについて

都市緑化・緑のまちづくり支援担当

月~土曜日 9~12時、13時~17時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-352-2535 /または 561-1350

(公財)京都市都市緑化協会